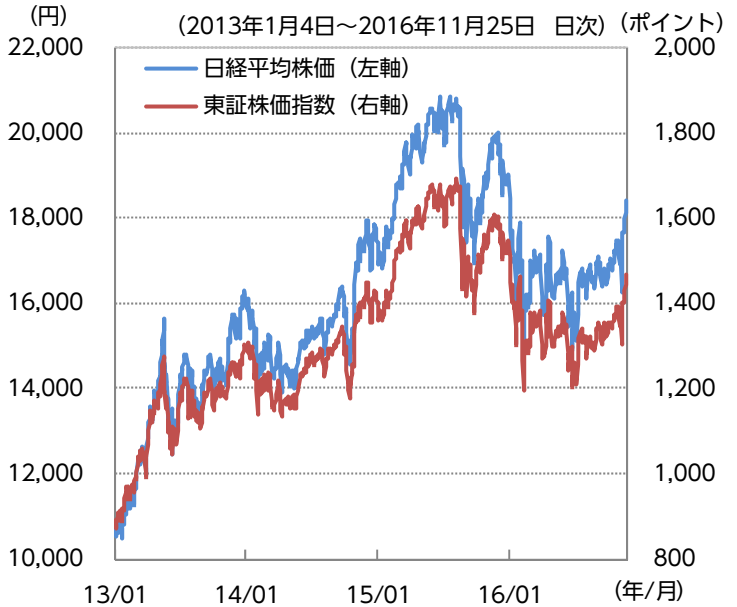




## (1) 日本の株式・債券市場

### 株式市場の動き

- 先週の日本株式市場（日経平均株価）は、週を通じて上昇しました。週末25日（金）の取引時間中には今年1月4日につけた年初来高値を一時上回りました。円安の進行により、自動車や電機などの輸出関連企業の業績改善期待が一段と高まったことが、主な要因となりました。（週末引け値：18,381.22円）
- 週間では、日経平均株価は2.30%の上昇、東証株価指数は2.53%の上昇でした。



### 債券市場の動き

- 先週の日本債券市場（10年国債金利）は、前週末比で上昇（価格下落）しました。週央までは日銀の買い入れオペや、超長期債入札を受けて一進一退の展開となりました。週末は、米長期金利の先高観を背景にした米債券安が国内債券の売り（利回りの上昇）に波及し、一時0.045%とおおよそ9ヵ月ぶりの高水準をつけました。（週末引け値：0.042%）
- 週間では、10年国債金利は0.002%の上昇となりました。

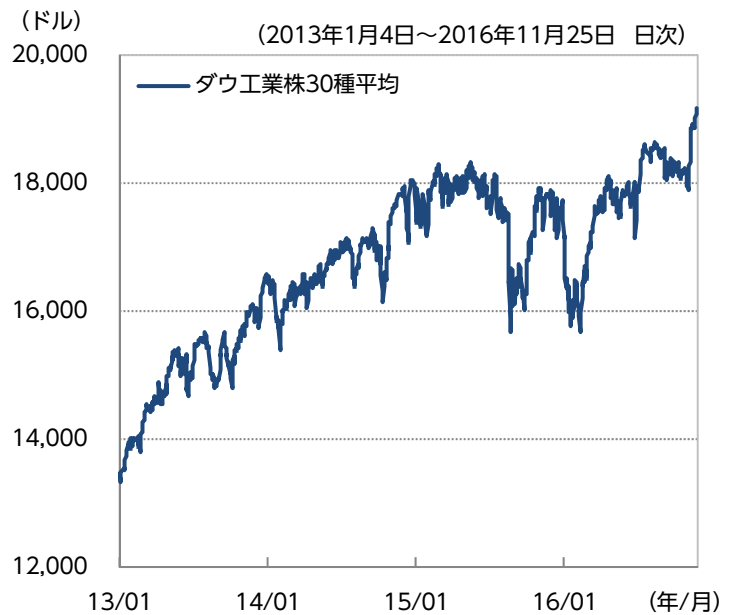


●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。●投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。●手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品をお勧めするものではないので、表示することができません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

## (2) 米国の株式市場

### 市場の動き

- 先週の米国株式市場（NYダウ）は、米大統領選後の流れを引き継ぎ週を通して上昇となり、連日市場最高値を更新しました。23日（水）に米連邦公開市場委員会（FOMC）議事録が公表されたものの、12月の利上げを予想している投資家が多いため反応は限定的でした。週末は米金利上昇が落ち着く中、公益や通信等の高配当株が中心に買われ、上昇しました。（週末引け値：19,152.14ドル）
- 週間ではNYダウは1.51%の上昇となりました。

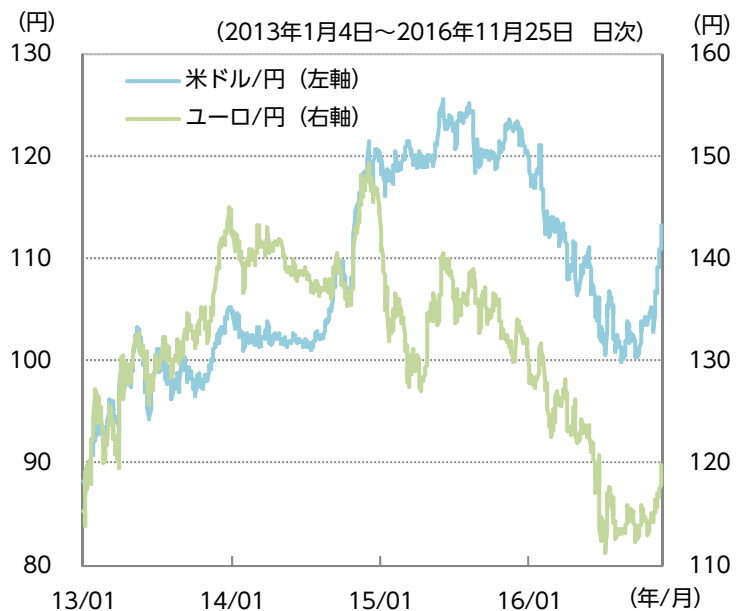


出所：ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

## (3) 外国為替市場

### 市場の動き

- 先週の米ドル/円相場は、前週末比下落でスタートしました。週央以降は、米金利の先高観を背景とした米ドル高の流れや日米の株価上昇など投資家のリスク選好の高まりから円は対米ドルで下落しました。24日（木）にはロンドン外国為替市場で、一時113円53銭近辺と3月15日以来約8ヵ月ぶりの円安・米ドル高水準となりました。（週末引け値：113円00銭～10銭）
- 週間では米ドル/円は2.08%の円安、ユーロ/円は2.04%の円安となりました。



出所：ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。●投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。●手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品をお勧めするものではないので、表示することができません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。